

CIEC Newsletter

お知らせ

<CIEC 第55回研究会>

テーマ：iPodの語学教育への活用・実践そして可能性

日時：2005年10月16日（日）

会場：大学生協会館2階会議室

<http://www.ciec.or.jp/>

<PCカンファレンス2005inおきなわ>

テーマ：ちゅら島おきなわで国際化と情報化

日時：2005年11月5日（土）～6日（日）

会場：琉球大学 千原キャンパス

<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/pcc-oki/>

<PCカンファレンス北海道2005>

テーマ：情報技術による地域連携を考える

日時：2005年11月5日（土）～6日（日）

場所：北見工業大学

<http://www.hokkaido.seikyou.ne.jp/pcch/2005>

CONTENTS

<CIEC 研究会報告>

- ・CIEC 第53回研究会報告 2
- ・CIEC 第54回研究会報告 3

<2005PCカンファレンス>

- ・2005PCカンファレンス概要報告 5

<お知らせ>

- ・CIEC 第55回研究会開催案内 8
- ・PCカンファレンス2005inおきなわ開催案内
- ・PCカンファレンス北海道2005開催案内
- ・部会からのお願い
- ・献本紹介 9

CIEC 会員状況

- ・個人会員 837名
(教員614, 大学職員16, 院生47, 学生5,
生協職員88, 企業26, 研究員9, その他32)
- ・団体会員 94団体
(企業31, 生協58, 大学2, 高校1, 法人2)

CIEC ニュースレター

2005年9月30日

発行：CIEC（コンピュータ利用教育協議会）

編集：CIEC 運営委員会

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協会館

TEL 03-5307-1195 FAX 03-5307-1196

e-mail jim@ciec.or.jp URL <http://www.ciec.or.jp/>

<CIEC第53回研究会報告>

テーマ：iPodの教育への活用・実践そして可能性

日時：2005年 6月18日（土）13：30～17：00

会場：東京オペラシティタワー48階アップルセミナールーム

司会：吉田晴世（大阪教育大学）

今回の研究会は、本学会の団体会員と個人会員との研究における連携を深めることを目的として企画されました。

「iPod」はアップル社のハードディスク内蔵の携帯MP3プレーヤー。このiPod携帯音楽プレーヤーは、教育現場で、特に英語教育への応用という面で活用されて、利用範囲が拡大されつつあります。教育の現場でiPodがどのように活用されているかの事例として、大学英語教育に活用して成果をあげている実践例のご発表と、大学のe-learning環境の中でどのようにiPod/iTunesを教育利用しているか、また今後の可能性などを含めてのお話をいただきました。

最初に、アップル株式会社の小西氏（プロダクトマネージメント担当）は、「iPodは日本で発売されてからかなり広く普及してきた。それは現在のデジタルライフスタイルに合うものであり、デザインのシンプルさやファッションの一部として身に着けても違和感がないほどの評判を得ている。更に、iTunesによりmusic storeで音楽が買えるようになった。iTunesによりコンピュータへはケーブル一本でつなげるのも特徴としている。これは使いやすさを念頭に置いたもので、それに加えてアクセサリが充実していることも使用者が増加している理由であり、更なる展開として、教育の分野で利用できるのではないかと。当初は価格の面で高いというイメージであったが、今は買い易くなっている。」と解説しました。

次に、エデュケーション本部の平野氏は、「教育現場の導入事例を中心にお話をさせていただきたい。MacやiMacを導入している学校や愛好者からの問い合わせが多い。学校等ではiPodにコンテンツを入れた上で、利用してもらっている。この形としてコンテンツを入れて販売しているところもある。教育に利用できる特徴として、音声データのインストールがとても簡単であり、データの一元管理ができ、学習に適した操作性、学内のデジタル・データをポータルサイトにインストールするなど等。」と述べ、また、大学等でiPodを利用している事例を具体的に挙げての説明でした。



大学においては昨年4月に英語教育へiPodを英語教育に導入した。短期大学では平成15年度の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されて、iPod miniを使用した英語教育を行ってきた。なぜ導入したかは、まずその背景を説明すると、1997年にカリキュラムの改定を行い、英語教育における言語スキルの統合を目的として、それまでバラバラにやっていた授業内容を統合した。主な改定点は、コンテンツベースの授業、4つのユニットを設け、ユニットは内容を伴うものとし、トピックを設定してそれを追求しながら英語の力を付けていく（スキルと知の統合化）、チームティーチングを行う、などであった。

授業においては、それぞれの授業で行われていること、取り組まれていることなどを説明し、誰もが情報の共有ができるようにした。例えば、リーディングの授業では全体として今どんなことが行われているかなどの情報を伝えた。教材についてはもともと自主開発を行っている。

これらのことを踏まえて、カリキュラム改定を背景としてiPodの英語教育への導入を考えた。英語教育での利用は、「操作性がよい、簡単に使いこなせることとMacはもちろんのこと、Windowsにも対応していること、準備等に時間が取られないこと、メンテナンスが容易であること、その上、デザイン性がよいので使い心地がよい」などである。

これまでリスニング教材などでは、学校で学習したことを家に持って帰る、また、家で復習、宿題をやって学校に持ってくる、などは従来型のメディアはなかなか難しいところがあったが、これは容量がとても大きいことでこのことが可能となった。さらに、メモ機能も利用でき、その上、iPodは外付けハードディスクとして利用できる。

次に、学生側から見てみると、「片手で操作できる、通学時間にいつでも利用できる、一人で発音などが練習できるのがよい、都合のよい時間に自由にできる、英語のダイアログを聞いていると覚えてしまう、音楽を入れて聞ける（学校では禁止）」などなど。教員側からは、「学生のリスニング力が上がった、発音がよくなった、英語を確実に聞いて練習していることが分かる、英語学習の音の学習の効果が出ている」などであった。

導入をしてから様々な問題が生じてくるかと思われたが、大きな問題はあまりなく、導入時に誤ってデータを消した程度である。これはサポート体制、CALLのスタッフがデータの管理、教材の作成（録音）などがしっかりしているからだと思う。

今後はiPodの新たな利用法としてiTalk機能の利用により、後で講義が聞ける、本を読んで入力していったこれを学生が聞けるようにする、などなどあると思う。最後にお化粧しているiPodを見ていただきたい。



「iTunes/iPodはe-learning時代の

学習ツールとなりうるか」

中部大学国際関係学部 尾関修治氏

・ 教具としてのiTunes / iPod

カセットレコーダ（発表のために持参してきた）は便利であり、拡声装置の役目も果たし、しかもあらぬところに触ると動かなくなるというような破滅的な失敗を避けられるということもある。一方、iTunes / iPodを教具として利用することにより便利さが増した。今何を再生しているかがすぐ分かる、あと何秒で終わるかも分かる、再生速度も変えられる、オーディオブック形式にできる、メニューも見れる、情報量が多い、プログラマブルな再生機である、など便利な教具である。これに関わりがあるのは、音声教材の配布に関わる著作権の問題である。

・ 音声教材ブラウザとしてのiTunes

iTunesは「ブラウズ」機能とインクリメンタル・サーチができるなどの両方を備えていて、検索能力が抜群である。しかし、残念なことにその機能がiPod側にはない。音声教材を提示するときプレイリストによって再配置が可能であり、再生した回数等の記録も見られる、on-the-goリストやスマートプレイリストの作成などができる。作成したプレイリストはネットワーク機能の利用により公開することも可能である。注意しなければならないのは音声教材の複製によって生じる著作権であり、持ち帰って聞くのは著作権上の問題が起こる。

・ e-learningで大切なもの

「いつでもどこでも学べる」というのはe-learningの狙いである。しかし、いつ学ぶか、何を学ぶか分からないこともあり、情報を小出しにすることも必要であり、情報をぶつ切りにするとみんな案外とついて来てくれるということもある。どのように情報をコントロールするか、教材をどう配置するか、また、いつ教材を配信するのがよいか。いつアクセスさせるかである。今までのコマの概念が崩れるので、求める「深さ」は個人により異なる。情報の相互リンクが必要であるが、「誰が学ぶか」という個人認証の問題が出てくる。

・ iPodに向く教材

iPodを活用する場合、教材として取り込むのに容易なのは、比較的短い音声で完結し、再生順序を問わない語学教材であり、プレイリスト再生に適している。さらに、文字や図版に頼らない朗読や話芸なども向いている教材と言える。

・ iPodでの「メモ」と音楽ファイルのリンク

「メモ」(note)でHTMLを使用できるようになっている。メモ相互、またはメモと音楽ファイルとリンクすることによる。音声による情報をナビゲートし、音声を埋め込んだ練習問題、今何を聴いているかを確認できるのはiPodの画面を見ながらできる。またメモだけ配布することもできる。

・ Podcastについて

RSSフィード (RDF Site Summary、またはRich Site Summary) によるコンテンツ更新通知と音声ファイル配布を組み合わせたものであり、差分(ファイル)をiPodに転送して聴く。ブログと組み合わせると楽に設置できる。

最後に、CDなどにより教材を一括配布しているが、教具としてのiTunes / iPodによる教材の配布はe-learning向きである。その上で、教材などは一定時間経過後にexpireするような仕掛けがほしい。教科書にあまり依存しない耳から入るe-learningというのは使えるかもしれない。



質疑応答では、「教材作成の時間と負担」、「著作権について」、「倍速にするとリスニング効果があるか」、「情報、データを活かすようなネットワークを作ったらよい」などがありました。

最後になりましたが、今回の研究会にあたり、アップル株式会社より、アップルセミナールームの提供と参加者にはくじ引きでソフトや携帯ストラップ等の景品が提供されましたことにお礼申し上げます。

(文責：石川 祥一)

＜CIEC第54回研究会報告＞
CIEC生協職員部会関西支部設立集会

日時：05年6月11日（土曜日）

場所：京都工芸繊維大学 総合研究棟4F会議室

第1部 CIEC関西支部設立集会（14時から15時）

設立集会挨拶 京都工芸繊維大学生協理事長遠藤久満先生

設立集会挨拶 CIEC生協職員部会副代表

内赤尊記（千葉大学生協）

関西支部世話人代表挨拶 中森一朗（京大学生協）

第2部 CIEC第54回研究会（関西支部設立記念研究会）

CIEC生協職員部会関西支部への期待

CIEC副会長 京都大学 若林靖永先生

CIEC小中高部会からの報告

滋賀県立水口高校 小西浩之教諭

生協に期待すること

京都工芸繊維大学 渋谷雄先生

各生協取り組み報告

1：京大学生協 松永剛士（京都大学情報学研究院院生）

2：龍谷大学生協 加藤由美（生協職員）

3：兵庫県立大学西部生協（元・姫路工業大学生協）

衛藤昭二（生協職員）

4：金沢大学生協 梅原健次（生協職員）

第1部

[遠藤先生] 生協への大学側からの期待

現在、生協が求められているPC事業は大学の情報教育授業の「隙間」を埋める役割だということ。研究者の役割は

「新しい研究」。生協の期待されていることは研究者が研究に専念できる環境を作ること。つまり生協の役割は大学が行わなくてよい部分、その「隙間」を埋めることなのである。具体的に言うと現在生協が行っている教材PCのサポート事業、PC講座などの展開を大学の代わりに進めていくことが重要な役割になる。生協は安全・安心・安定・安価この4点を今後も追及し、大学ともに発展していきたい。立派な学術組織としてのCIECの中で、純粋に学術的な研究だけではなく、専門外の人も含めた広範な利用者との間に立ってPCの利用支援に大きな貢献をしている生協職員の意見交換の場として、CIEC生協職員部会関西支部の役割に大いに期待したい。

[内赤氏] CIEC生協職員部会発足の経過および背景の説明・関西支部と共同でやっていくことへの期待

内赤氏にとっての職員部会は山口代表とのメールでのやり取りの中でも見られるように『私達自身が“学ぶ”ということを楽しみ続けたい』ということ。自分たち職員も成長し続け、この場（職員部会）において確認していく。この間のわれわれは組合員不在の「ただのモノ売り」であったのではなかったかという反省がある。この生協職員部会という「活動の場」は、ここを通して学生・教職員を中心にする大学、そして地域社会とPCを介して教育そのものを共に考え、連携させコミュニティをつくり、われわれ自身も成長していくそういう場でありつづけたい。



[中森氏] 設立趣旨および世話人会メンバーと今後の活動

1：関西の仲間の幅広い交流をめざします。

2：活動目標

- (1) 関西地区の生協職員同士の実践交流を進めます。
- (2) 大学、地域に幅を広げた意見交換を進めます。
- (3) 事例研究を積み重ねた成果の発信を行います。

3：部会活動について

月1回程度の部会活動を進め、世話人メンバーを中心に運営を行います。あわせて継続的に情報発信を行い参加の輪を広げます。

4：関西支部部員について

顧問を若林先生にお願いし、呼びかけ人に加えて6月11日までの参画者が支部設立時点での部員として活動を開始します。

5：実施組織について

CIEC生協職員部会関西支部 代表 中森一朗とします。

CIEC生協職員部会関西支部世話人会のメンバー

中森一朗（京都大学生協） 小野田陵二（京都大学生協）

松下貴彦（立命館大学生協） 加藤由美（龍谷大学生協）

小國幸子（滋賀医科大学生協）

羽賀省二（大阪樟蔭大学生協）

沢口龍治（京都事業連合） 大石恵子（京都事業連合）

小林完（京都事業連合） 植田泰史（大阪事業連合）

関口昌宏（神戸事業連合） 坂口辰彦（金沢大学生協）
大久保厚（連合会）

第2部

[若林先生] CIEC生協職員部会関西支部への期待

大学生協の運動・活動の中から生まれてきた組織であるCIEC。そして、さまざまな部会が生まれ、今日生協職員部会ができた。これをきっかけにさらに今後CIECの活動が豊かに発展してほしいと願う。大学生協ができた当初は「食」と「本」を中心に取り組んできた。これの現代版として、コンピュータが台頭してきた。つまり「PC」という新しい取り組みが大学生協の中に加わったということ。初期のコンピュータMS-DOSは作業処理の道具でありコミュニケーションの手段ではなかったがMACの出現により自己を確立できるツールとなったことに注目しよう。しかしあくまでもPCは「道具」だということを理解しなければならない。大学教育のあり方が問われている現在、コンピュータの限界をしっかりと見据え、授業のあり方、生徒との接し方など「人との関係、心の交流」を見直していかなければならない。CIECの最初の出発点はPCを介して人を豊かに育てるということだった。CIECという「場」が提供されることにより、学生・教職員・生協職員・地域社会がより元気になってほしいと願う。最後に私の「思い」としてはPCCの関西版を共同の企画としてやりたいです。



[小西先生] 小中高部会の取り組み
活動方針…「新しい教育の創造」

今までになかった教科「情報」が出現「子供の学びとコンピュータ」と「情報化社会の中の子供たち」を中心的な方針とし、活動目標として以下の3点を重点化。

- 1) コンピュータ利用教育の原点、教科学習（2単位）におけるコンピュータの利用の向上を図る
- 2) 総合的な学習の時間の研究を進める。
- 3) テクノロジーの進展（ex.携帯の普及）に対する教育活動の質的な変化を探る。常に変化を遂げている情報機器を知り、それらを活用した先進的事例報告を行う。

[渋谷先生] もっとコミュニケーションを重視したサポートを！

担当している1年生の「情報リテラシー演習」では、大学生活においてコンピュータを円滑に活用できるコンピュータリテラシー能力の育成を目的としている。また、文具のように日常的に使うことを目標とし、必要な機能と性能を備えながらも携帯可能な科目推薦PCを生協を通じて紹介しており、例年、入学者約120名のうち60～70%程度の学生が利用している。このPCに関するトラブルなどのサポートを生協で受け持ってもらっているが、直してもらっても「なぜ直ったか」ということを学生が理解できていない場合が多い。われわれ教える側が求めるのは生協のスタッフはただ単に直すだけではなく、もっと学生に「なぜおかしくな

ったか」、「どこを直したか」を教えてやってほしい。こういった、コミュニケーションを通して、いずれは学生自身で問題を解決できることを期待している。生協側スタッフにもっと「教育する場」として意識を持ってほしいということである。

【松永氏】 2005年度オリジナルPC購入者向け講座

京大生協では2002年度より学部入学者(100人強)向けにセットアップ講習会をいっせいに実施していたが、個人間のスキルの差が大きく「教えるということ」に関しても限界を感じていた。生協・学生・親・大学の4者の思いがまままで、まとめきれずおらずすべてに関して満足度の低いものとなっていた。そこで2005年度より方針を、5.6人の班による少人数・グループ学習形式の「課題解決型講座」に変更した。まだ3回しか行っていないがこれにより、スタッフからは

- ・受講生の意識の向上
- ・主体的に取り組む学生の増加
- ・ディスカッションの活発化

など、前向きな感想が寄せられている。ただ、改善すべき点として、大学とのカリキュラムとの調整・受講者のスキルの把握・スタッフの育成・スキルアップなど3点が挙げられる。

【加藤氏】 新入生パソコン講習会in龍谷大学瀬田学舎

2003年：この年の新学期PCはただパソコンを売っていただけだった。他大学の取り組みを聞いて来年は何か取り組みをやりたいと思っていた。

2004年：業者(ヒューマンアカデミー)にお任せの講習会…大量在庫を残し失敗に終わる

2005年：学生が考え、学生が講師をする学生参加の講習会を企画

新入生は言葉だけでは分らない子も上級生と一緒に作業をすることで問題が解決できるようになったり、昨年までには見られない「よかった」という感想が多く寄せられた。講師をしてくれた上級生達も初心者に教える難しさを知り、同時に教える楽しさもわかり、自分がした行為で「喜んでもらえる」感動も味わった。今後の生協の課題は大学側との講義内容の調整。講座のプログラムの工夫と、幅広い層の講師を増やし、同時にスキルアップも含めての対応をしていくことである。



【衛藤氏】 教材パソコンの取り組みについて

8年目の取り組み。8年前は100台くらいの利用だったが今年は入学者の40%、450人が利用。大学の教諭と打ち合わせしカスタマイズしたものを提供。

今後の課題：1) 現在無料で講習会行っているが有料化し内容の充実したものにしていきたいと思っている 2) 就職支援。PCを利用するの提案 3) ワイヤレスLANの活用～大学との調整。

【梅原氏】 2005年度新学期PCの取り組み

昨年実績 278台 今年度 366台 講習会つき。「動産保険」「講習会」学内でサポートが受けられる」「みんな同じPCを持っている」…本人の不安の解消よりも父母の不安の解消が販売につながった。

今後の課題：来年のパソコンの必携化にたいする準備。来年1800人の新入生に対応しなければならない。現在の13名のスタッフでは無理。これからどうするか準備していかなければいけない。

2005PC カンファレンス報告

<2005PC カンファレンス概要報告>

2005PC カンファレンスは8月5日～7日の3日間、朱鷺メッセと新潟大学を会場に開催されました。750名の参加者を得て盛会のうちに終了致しました。写真を添えて報告致します。

- (1) 開催日時 2005年8月5日(金)～7日(日)
- (2) 開催場所 新潟大学五十嵐地区
(新潟市五十嵐2の町8050番地)
朱鷺メッセ(新潟市万代島6番1号)
- (3) 開催テーマ「情報」時代の豊かな可能性を求めて
- (4) 主催団体 CIEC(コンピュータ利用教育協議会)
全国大学生生活協同組合連合会
2005PCカンファレンス実行委員会

(5) 後援団体
新潟大学、文部科学省、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新発田市教育委員会、新潟職業能力開発短期大学校、新潟高度情報処理技術学院、敬和学園大学、長岡技術科学大学 eラーニング研究実践センター、現代教育新聞社、日本教育新聞社、社団法人日本工業英語協会

- (6) 実行委員会
名誉実行委員長 長谷川 彰 新潟大学学長
実行委員長 小林 昭三 新潟大学教育人間科学部教授
副実行委員長 佐伯 胖 CIEC会長
(青山学院大学総合研究所所長・文学部教育学科教授)

全体会

- 開会挨拶 小林 昭三 新潟大学
2005PCカンファレンス実行委員長
来賓ご挨拶 武藤 克己 新潟県教育長
挨拶 長谷川 彰 新潟大学 学長
2005PCカンファレンス名誉実行委員長
司会 立田 ルミ CIECカンファレンス委員
(獨協大学)

講演会

- 実施日時 8月5日(金) 10:05～11:45
開催場所 朱鷺メッセ メインホールB

講演 小泉英明 株式会社日立製作所役員
基礎研究所フェロー
独立行政法人科学技術振興機構 研究統括



演題「脳科学と教育」研究の現状と将来展望

脳科学と教育に関する研究は、世界的にも注目を集めており、脳と心の成長を科学的に解明し、理想的な教育のあり方を確立していきたいという興味深い内容でした。



2) 口頭発表 90本

新たに学生論文賞を設けて、最優秀学生論文賞と優秀学生論文賞が選出され、レセプション会場にて表彰状と副賞が授与されました。

<学生論文最優秀賞>

「レポートのグループ化による
レポート採点支援に関する研究」

広兼 崇博 (徳島大学)

<学生論文優秀賞>

「学協主催のパソコン講習会の意義と役割：
学習到達度調査をもとに」

前田 洋樹 (神戸大学)

シンポジウム

実施日時 8月5日(金)12:45~15:30
開催場所 朱鷺メッセ メインホールB
テーマ 「若者の自立と教育の課題」
パネリスト 橋本 勝 岡山大学
藤田 哲也 法政大学
和田 寿博 愛媛大学
田中 一郎 金沢大学 (CIEC 理事)
司会 若林 靖永 京都大学 (CIEC 副会長)
指定発言者: 佐伯 胖 青山学院大学 (CIEC 会長)
生田 茂 筑波大学 (CIEC 副会長)



「自立という課題を抱える若者」という切り口から、学生の現状や取り巻く状況について教育改革が向かうべき課題についてパネリストから報告がありました。質疑応答も多く参加者のみなさんの関心が伺えるシンポジウムでした。

開催地企画

【第1部】テーマ:「情報教育の課題と展望
ーアジア諸国と日本へ」

1)台湾・逢甲大学における無線LANの導入事例と
その効果について
Fang-Rong Hsu, Feng Chia University Translated

2)The Current Status of Information Technology
and IT-based Physics Education in Korean Universities
Keum H. Lee, Chonbuk National University
台湾と韓国の招待講演者からアジアにおける、情報教育の先進的な事例を報告していただきました。第2部では、2つの分散会に分かれて、引き続き、報告と討論が行われました。



分科会

1) ポスターセッション
・ポスター発表数 64本
昨年に続き、最優秀ポスター賞と優秀ポスター賞が選出され、レセプション会場にて表彰状と副賞が授与されました。
<最優秀賞>
「科学を身近なものにする国立天文台野辺山のWeb開発」
山中 恵莉奈 (金城学院大学)
<優秀賞>
「VOA 利用による統合的英語学習教材の作成」
吉田 晴世 (大阪教育大学)
「名古屋汎太平洋平和博覧会デジタルミュージアム」
中田 平 (金城学院大学)



【第二部】

A：「初等・中等・高等教育における情報教育の課題と展望
～アジア諸国と日本～」

1) IT-Based Education in Korean Schools and Chonbuk National University: Current Status

Jin Seung Kim, Chonbuk National University

2) 「韓国視察レポート」

武沢 護 早稲田大学高等学院

3) 「ソウル日本人学校から報告」～中継～

渡辺 直樹 ソウル日本人学校

メイントークを全面的に引き継いで、アジア諸国の中でも特に先進的な実践をソウル日本人学校と中継しながら紹介をしていただきました。



B：「PC 必携化時代の教育/教育環境を考える」

1) 「金沢大学における現代 GP プロジェクトと
携帯型 PC 必携化の現状」

松本豊司 金沢大学総合メディア基盤センター情報教育部門
佐藤正英 金沢大学総合メディア基盤センター情報教育部門

2) 「私立小規模大学のノート PC 必携化と購入率 90%の現状」
羽賀省二 大阪樟蔭女子大学生協

3) 「2005 年新学期パソコン向け大学生協電話サポート」
パネルディスカッション 司会 矢部正之 (信州大学)

昨年に続いて大学における PC の必携化をテーマとしています。大学におけるコンピュータの販売・サポートを担う大学生協にとって大学教育がどう変わっていくのか、様々な要請にどのように応えていくべきか関心のあるテーマです。



イブニングトーク

- (1) 情報教育の高大連携
- (2) ネット社会と子供達
- (3) 情報教育とテクノロジー
- (4) 大学の PC 必携化における大学生協の役割と課題
～生協サポートの現状交流
- (5) だれでも作れる適応型テスト、無料で使える CAT システム
- (6) 英語で学ぶ PC スキル その可能性
- (7) 台湾の大学におけるキャンパス・ワイヤレス化への取り組み
～キャンパス・ワイヤレス・ローミング・プログラムの紹介～



ITフェア

来場者数 約 700 名

出展企業 47 社 60 ブース

最新の機器やソフトの情報を得ることができ、質問にも親切に答えていただけます。

また、実際に試すことができるので参加者に大変好評です。



レセプション

主催者挨拶 濱田康行 (全国大学生生活協同組合連合会副会長理事)
佐伯胖 (CIEC 会長)

ポスター発表表彰 宿久洋 (同志社大学)

学生論文賞表彰 小林昭三 (2005PCC 実行委員長)

和やかな雰囲気の中、約 400 名が新潟特産のお料理と地酒を楽しみながら交流を深めました。



お知らせ

<研究会開催案内>

CIEC 第 55 回研究会開催案内

テーマ：「iPod の語学教育への活用・実践そして可能性」

日 時 2005 年 10 月 16 日(日) 13:30 ～ 17:00

会 場 大学生協杉並会館 2 階会議室

内 容：

「iPod nano の紹介と語学学習用としての iPod 活用事例」
アップルコンピュータ株式会社 秋間 亮

「資格教育・語学教育における iPod の活用事例」
株式会社東京リーガルマインド 齊藤 敦

「iPod への語学教材取り込み -VOA 素材の活用について」
北九州市立大学国際環境工学部 上村 隆一

開催の趣旨

前回、大変好評の iPod に関する研究会(第 53 回研究会：テーマ「iPod の教育への活用・実践そして可能性」
http://www.ciec.or.jp/~f_lang/ciec53/index.html)
の第 2 弾。

iPod は携帯音楽プレーヤーの代名詞とも言われるようになり、Apple の楽曲管理ソフト「iTunes」は、音声ファイルを自動的に収集できる仕組みをサポートしました。この機能は、欲しい音楽などを登録しておけば、自動的にダウンロードしてくれるため、新しいコンテンツ配信の仕組みとして注目を集めています。そして、iPod が、ただ単に音楽を再生する機器ではなく、学習用機器としても、いつでもどこでも必要なリスニング教材を聴ける語学教育などへと利用が広がっています。

今回の研究会ではアップルコンピュータ株式会社の方をお招きし最新の iPod nano についてご紹介いただき、各教育機関での語学学習への iPod 活用事例などについてお話していただきます。また、資格の総合スクール東京リーガルマインドでは、iPod の圧倒的な記憶容量を利用して膨大な講義を収録し、iPod クラスを開講されていますが、今回は iPod を利用した新しい資格学習講座の「TOEIC 基礎力養成講座 iPod クラス」などに関する話題を。さらに、CIEC の外国語教育研究会では、「VOA (Voice of America) プロジェクト」として、VOA 素材から外国語 e ラーニング教材の開発を行ってきました。今回は VOA 素材から外国語学習教材を iPod を利用した教育に使用できる英語教材の作成に関する具体的な方法についてわかりやすくお話いただく予定です。

そして、広い意味での携帯音楽プレーヤーの教育への利用の可能性が探れ、少しでも、これからの教育や研究現場で活用する上でのヒントになれば幸いと考えています。

参加費：CIEC 会員は無料

その他の方は 500 円 (どなたでもご参加いただけます)

お申し込み・お問い合わせは CIEC 事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協会館

Tel: 03-5307-1195

Fax: 03-5307-1196

e-mail: sanka@ciec.or.jp URL: <http://www.ciec.or.jp>

CIEC Newsletter, No 38 September 2005

PC カンファレンス 2005 in おきなわ開催案内

テーマ ちゅら島おきなわで国際化と情報化

日時 2005 年 11 月 5 日(土) ～ 6 日(日)

会場 琉球大学 千原キャンパス

<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/pcc-oki/>

PC カンファレンス北海道 2005 開催案内

PC カンファレンス北海道 2005

テーマ 情報技術による地域連携を考える

日時 2005 年 11 月 5 日(土) ～ 6 日(日)

会場 北見工業大学

<http://www.hokkaido.seikyuu.ne.jp/pcch/2005>

<部会からのお願い>

VOA 素材共同利用についてのアンケートにご協力ください

CIEC 会員の皆様には、日頃よりコンピュータ利用教育の推進について、ご理解ならびにご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、CIEC 外国語教育研究部会では、2003 年度よりプロジェクト研究・事業として、米国 VOA (Voice of America) が国際衛星放送を介して提供する番組を活用 (二次利用) し、ストーリー映像および音声を中心とする教材開発と同素材の共同利用を進めています。

特に、今年度は、CIEC のウェブサイト上で上記の試作教材を含むコンテンツ (映像・音声データ) を会員向けに公開し、外国語教育に携わっておられる先生方に、これらの素材を広くご利用いただくことにしました。

つきましては、現在 CIEC の新サーバ上で公開中のストーリー映像・音声素材をご覧いただき、世話人が試作した教材の内容等を含めてアンケートにお答えいただきたいと存じます。VOA プロジェクトのウェブページおよび VOA 素材・試作教材は下記の URL にてご覧になることができます。

http://www.ciec.or.jp/~voa_project/

ご意見・ご感想等は上記トップページからアンケートのページへリンクを張っておりますので、そちらのページ上で直接ご記入ください。

なお、本プロジェクトに関する問い合わせは下記の代表世話人メールアドレスあてにメールをお願いいたします。

uemura@env.kitakyu-u.ac.jp

最後に、重ねて会員の皆様のご協力をお願いいたします。

CIEC 外国語教育研究部会

世話人一同

< 献本紹介 >

2005年8月9日 『大人が子どもを壊すとき』
～「良い子」しか愛せない大人と、正論を怖がる子ども～
今一生 著

2005年8月22日 情報化社会のリテラシー
～情報と技術・経済・経営・倫理・法律・福祉～
岡本隆 橘恵昭 編著

2005年8月22日 e-ラーニングの発展と企業内教育
菅原良 著